

第4回 国立公園満喫プロジェクト有識者会議

議事要旨

1. 日時：平成29年2月9日（木）15：00～17：00
2. 場所：中央合同庁舎5号館 環境省第1会議室
3. 出席者：

（政府側）

山本公一環境大臣、関芳弘環境副大臣、亀澤玲治自然環境局長、正田寛大臣官房審議官、岡本光之国立公園課長、上田康治総務課長、吉田一博自然環境整備課長、堀内洋国立公園利用推進室長、中島尚子温泉地保護利用推進室長

（有識者・50音順、敬称略）

デービッド・アトキンソン（小西美術工藝社社長）

石井至（有限会社石井兄弟社社長）

江崎貴久（旅館海月女将、有限会社オズ代表取締役）

野添ちかこ（温泉と宿のライター）

涌井史郎（東京都市大学環境学部教授）

4. 議事概要

○山本環境大臣より冒頭挨拶

昨年5～7月にかけて開催した3回の有識者会議での議論を踏まえ、8つの国立公園を選定した。その後各委員による現地視察でのご助言も踏まえながら、地域協議会での議論を経てステップアッププログラム2020が策定された。今年はその内容に沿って取組を実施し成果を挙げていく年になる。本日は8つの公園について今後の取組についてご助言を頂きたい。国立公園の訪日外国人利用者数は平成28年の暫定値で546万人となった。1000万人の目標達成に向けて、より一層の取組が必要であるのでよろしくお願いしたい。

○涌井座長

現地視察を通じて現実的にステップアップしていくために必要なことを感じ取っていただけではないかと思う。その中で、国立公園の訪日外国人利用者数が昨年から100万人近くの上乗せとなっているということで、勇気の得られるお話を頂いた。

議題（1）国立公園満喫プロジェクトの実施について（本プロジェクトで先行的、集中的に取組を実施していく国立公園の取組について）

○事務局から資料1-1、1-2、1-3、1-4、1-5に基づき説明。

【石井委員】

- ・選ばれた国立公園のうち3箇所を視察した。慶良間諸島国立公園は、冬期には丘の上からクジラが観察できると聞いていたが、今回の視察では確かに丘からクジラが見えたのだが豆粒のような大きさであった。船から見た際も、同様に豆粒ほどの大きさだったので特段クオリティが落ちるという訳ではなく、丘からでも近くに見えることもあるようだ。世界的に丘からホエールウォッチングができる場所は珍しい。慶良間諸島は夏はPRする必要がないくらい賑わうが、冬が閑散期のためPRが必要である。冬のメニューはホエールウォッチングが主だが、ウミガメは一年中すぐそばで見られるとのこと。そういったすばらしい観光資源があっても知られないと人は来ない。国際的なホエールウォッチングの協会に加入すれば、そのルートであつというまに知名度が高まるのではないか。
- ・もう一つ、すでに愛知県の中学生の体験として限定された形で行っているのがサンゴの植え付けである。観光客が自分の名前と日付を書いたプレートを取り付けて植える体験ができれば、例えば10年後結婚した時といった形で一生のうちに何回か来てもらえるのではないか。
- ・日光国立公園は、中禅寺湖はニュースで紅葉シーズンの様子がよく報道されるが、夏の気候は梅雨がないため札幌のようにからっとしているとのことである。台湾からの観光客は何度来日しても東京に滞在し、日帰りのエクスカージョンに参加する傾向がある。次にどこにいかうかと探しているため、中禅寺湖の気候は札幌に似ているということを伝えると意外性があるかもしれない。
- ・国によって行動の特徴が違う中でいろいろ取り組んでいかなければならない。今後ファムトリップの実施が予定されている。これまで各地でファムトリップに取り組んできたが、効果が出ているところはほとんどない。実施の方法に気をつけていただきたい。
- ・十和田八幡平国立公園は、環境省の事業ではなく観光庁の広域観光周遊ルートの関係で視察した。休屋地区は廃屋だらけで実際に行くと少しがっかりする。こちらについてはまずは廃屋の撤去をすすめてもらうところから始めるべきである。
- ・十和田湖と同じ水面のレベルに露天風呂を造って、天然の湖と境目なく見える温泉としてはどうか。そうした温泉はこれまで例がない。とりあえずは日帰り露天風呂でもいいが、ゆくゆくはホテルにも進出いただけたらと思う。

【アトキンソン委員】

- ・日本では街並みがほとんど失われてしまった以上、最大の観光資源は自然である。その意味ではまだもったいないところがたくさんある。
- ・日本では航空券がかなり高い。東京から霧島錦江湾国立公園に行くための正規運賃でロンドンまで行ってしまう。外国のトリップアドバイザーの書き込みをみると、韓国を経由して九州に行くことで運賃が3分の1から5分の1になることもあるようだ。それだけの交通費を払って国立公園に行っても、地元の設備が見合っていない。航空運賃に10万円

払う人は6,000円のホテルには泊まらない。

- ・ホテルの多様性も乏しい。ラグジュアリーホテルだけを整備すればよいとは思わないが、高価格から低価格まで階段状の値段設定が必要である。現状では安い宿泊施設しかない。
- ・設備投資が不足していることも課題である。畳を何年前に変えたのかわからないような宿泊施設に泊まることもあった。
- ・キャンプ場の設備も時代遅れである。おそらく子供が増えている時代に整備されたのだと思うが、小屋が崩れそうだったり、テントとテントの距離がすごく近かったり、キャンプ場として電気も引かれていなかったりと、いかにも子供の利用や、修学旅行が対象というものが非常に多い。最近ではグランピングが注目されているが、子供を基本としたものから観光施設に変わっていくべきではないかと思う。
- ・日本の森林は景色はいいが整備の現状はもったいない。まず座る場所がほとんどないしトイレも全くない。座る場所があったとしても、目の前に海があるのに、ベンチの向きは駐車場だったりする。
- ・ごみ対策もできていない。地元の人はいいが、外国人はどこまで持って帰れば良いのかとを感じる。海外のようにごみを駐車場のところで捨てられるようにすればよい。
- ・園地の解説板はなぜか駐車場にあり、エリアの中には無い。植物や動物、地形の話は自然保護官からしてもらえば楽しめるが、そうでなければ楽しめない。解説板の内容も学者向けのよう難しいものが多い。そういったものも必要だが、少し詳しい、もしくはそれほど詳しくない人向けのものがあったら良い。
- ・案内板は、ある意味感動するくらいに意味が通らない英語が使われていることがある。ネイティブチェックは依頼しているのだろうが、自動翻訳のような不自然な訳や、文が途中で終わって続きが無いもの、文章として成り立っていないものなどがある。翻訳は文法的に正しい文章を書くだけであり、むしろ外国人のライターに書いてもらった方が良い。その方が良いものができるだけでなく、金額も安くなるだろう。特に自然という分野では各国の国立公園に関するライターをしている人がたくさんいる。
- ・ホームページについては、JNTO や Facebook とリンクして、ライターが書いた内容を、JNTO のコラムで発信していくなどの取組が急務ではないか。海外のトリップアドバイザーの書き込みを見ると、多くの人が感動しているのは自然であり、4000万人の目標に対しては一番効果があるのではないか。

【江崎委員】

- ・石井委員による伊勢志摩国立公園の視察に同行した他、大山隠岐、日光（那須）にも他の事業で訪れた。伊勢志摩、大山隠岐は眺望が良い国立公園なので、展望が良い地点をカフェという今までと違う形で使われることに感動している。実際 SNS での投稿を見ると確かに感動するが、それがいつまで持続するのかは心配。発信するときには写真に加える一言が大事だが、それをどのように伝えるかが難しい。特徴を示すことができるような仕掛

けをしないといけないのではないか。

- ・観光庁の進めているテーマ別観光による地方誘客事業の中でエコツーリズムに関する事業に関わっているが、複数の国立公園を巡るルートや、日本としてみた中でのルートは考える必要がある。

【野添委員】

- ・国立公園を含めた全国の温泉地を巡る中で、一番目立つのが廃業した旅館などの廃屋。ステップアッププログラムの取組として上質なホテル誘致を掲げている公園もあるが、臭い物に蓋をするのではなく、まずは廃屋をどうするかを一番に考えてほしい。
- ・外国人観光客は、高級旅館に泊まることも多いが、B&Bのような一泊3,000円程度の安宿に長く滞在し、外食をしたり場合によってはカップラーメンなどで食事をすませる方も多い。宿泊にお金をかけずに自然や景観、まちを楽しむ観光客も多いので、バリエーションを持たせることが大事ではないか。

【涌井座長】

- ・以下の5つの点について、ステップアッププログラムをきちんと整理していただきたい。一つ目はハードの問題とソフトの問題、二つ目はプロモーションのシステムとプレゼンテーションの有り様の問題を整理していただきたい。国立公園の利用者数1,000万人という目標を達成することももちろん重要だが、非常に重要なことは、経済効果を含めた体積を大きくしていくことである。利用者数を増やすことだけを目指ると、環境への負担が大きくなる。体積を大きくしていくためには、階層性を明確にすることがポイントとなる。
- ・三つ目は、国立公園だけでルーティングはできないということ。どの観光地にも母都市があり、母都市をゲートウェイとして周辺の地域にアプローチするような形になっている。母都市と周辺都市を広域的に計画し、機能分担と連携をしっかりとしていかなないと観光地としての魅力は生まれて来ない。国立公園の中だけの議論に留まると、経済効果も偏ってしまう。例えば、富裕層は非常にエクスクルーシブな条件を好んでおり、遠回りしてでもゆっくりといい景色を眺めながら移動したいと考えている。国有地がほとんどである海外の国立公園とは違って日本の国立公園は民有地が多いため、自然と人々がどのように共生していきているのかを見ることができ、それこそが日本の国立公園の魅力だと感じている。そのような意味で、ルーティングを考える上でも、協議会では広域的な計画論で考えてほしい。
- ・四つ目は、引き算の思想を強化してほしい。整備というものは必ずしも足して行くものばかりではなく、廃屋のように引いていかなければならないものもある。あわせて、国立公園の集団施設地区は本来どのようなものであるのかをもう一度基本に立ち返って議論してほしい。

- ・五つ目は、プランが出来上がった際の組織・体制の問題である。現状のパークレンジャーをみると、これ以上仕事を増やせるような状況には見えない。一方、知識豊富なアクティブレンジャーは不安定な雇用形態であり、彼らを次にステップアップさせて、国立公園の良質なガイダンスの担い手に変えていく仕組みやパークレンジャーの過負担を減らしながらどのようにこのプログラムを実行していくのかということを考えなければならない。

【石井委員】

- ・交通費についてだが、外国人観光客には JAL や ANA では日本全国どこでも一区間 10,800 円で利用できるサービスが提供されている。鉄道であれば JR の JAPAN RAIL PASS が提供されている。交通費の問題は解決され始めているのではないか。
- ・翻訳が上手く行われていない問題については、既に観光庁では単なる翻訳は行わないという方針が決まっていたと思うので、環境省もそれに準じていただければと思う。
- ・プロモーションについては、資料の中に JNTO に関する記載がみられないが、現在 JNTO ではスマートフォン向けのアプリを作成し、観光情報を集約させる予定である。その中に満喫プロジェクトの情報も集約して掲載できればよいだろう。その中では、エディター制度を導入する予定なので、国立公園に詳しい方も入れてもらおうとよいだろう。
- ・最近では、フランスやアメリカ、スペインなど観光で成功している国々からも、日本のインバウンド成長に対する関心が高まっている。ただし、省庁間で情報共有ができていないところももったいないと感じる。

【アトキンソン委員】

- ・宿泊施設についてだが、民泊のような低価格の層を整備することは、一部のマーケットとして重要である。ただし、4,000 万人の目標を達成するためには、バリエーションを用意することが重要である。日本の 1 泊の宿泊費の平均は 1 万円程度であり、ベトナムやミャンマーと同じ価格帯に属している。これは、先進国の 3 分の 1 程度である。先進国 24 カ国は、2 万円から 3 万円前後を推移している。世界には所得の高い人々がたくさんいる中、宿泊したいと思える施設がないから来ないという状況はもったいない。ユニークベニューを行う際にもリッツカールトンやフォーシーズンズのようなホテルがないと需給が成り立たない。
- ・交通費については、インバウンドのみに目を向けているところが問題である。小さな島国でない限りマーケットの過半数は国内観光客が占める。毎年 8,400 万人もインバウンドを受け入れているフランスでさえもそうである。赤坂迎賓館においても、インバウンド受入を名目に整備が進められてきたが、実際の利用者の 9 割は日本人であった。インバウンドのために整備をするが、一番恩恵を受けるのは日本人であることも意識しておかなければならない。
- ・日本のインバウンドは、600 万人から 2,400 万人まで増え、現在 12 位まで上がってきた。

しかし、伸びてきているとはいっても、日本の潜在能力からすると Top 5 には入れる。

○山本環境大臣より退席時挨拶

- ・期待していた通り大変興味深く聞かせていただき、また非常に勉強になった。地元の愛媛では最近、歩き遍路が増えており、特に外国人の方が増えてきている。日本の観光の原点はまさに歩き遍路にあるのではないかと思う。

議題（１）国立公園満喫プロジェクトの実施について（本プロジェクト全体の今後の進め方について）

○事務局から資料 2 に基づき説明。

【涌井座長】

- ・モデルとなる 8 公園に選定されなかった公園は非常に落胆していると同時に、今後自分たちの公園はこのような事業に取り組めるのだろうかという危惧と希望を合わせ持っているようだ。今回の事業では、モデルとなる公園をきちんと整備するとともに、他の公園もそれを真似すれば上手くいくという状況が見据えられているか。

【石井委員】

- ・1,000 万人の目標を達成するという課題について、選定された 8 公園だけではなく、現状で多くの観光客が訪れている公園、具体的には富士箱根伊豆や支笏洞爺などをさらに伸ばしていかないと目標達成は厳しい。観光庁のデータでリピーター率をみると、山梨県や奈良県や広島県などはリピーターが少ない。富士箱根伊豆も、富士山を 1 回見ただけで満足しているということが実状だと思う。訪れた人にとってもう 1 回訪れたいと感じられるような仕掛け作りが必要。
- ・選定された 8 公園で日本の多様な国立公園の魅力を外国人訪日客に伝えきれているかという課題については、例えば、南アルプスのような日本の美しい風景を表す典型的なエリアが漏れてしまっているのではないかと。今回手を挙げなかった公園については、関係都道府県が複数にまたがると必ずしも同じ熱意ではないために上手くいかなかったという理由もあるのではないかと。関係都道府県全ての足並みを揃えることは難しいため、熱心な県同士が連携して手を挙げてよいのではないかと。第二次の取組では、第一次の選定で足りなかった数値目標達成や魅力の多様性などの要素を補うような観点で選定してはどうか。

【江崎委員】

- ・全国に成果を効果的・効率的に波及させるための取組については、他省庁との連携を強めることが重要だと考える。国立公園満喫プロジェクトでは観光庁が積極的に関わってい

て素晴らしいと感じた。各省庁の役割分担を整理するともっと進み具合が良くなるのではないか。

- ・パートナー企業は、国立公園を知ってもらうきっかけとして大きな役割を持つであろう。
- ・一方、リピートしてもらうためには、ガイドの役割が非常に重要だと考える。一般的に、ガイドは自地域には詳しいが、日本の国立公園や日本の自然については詳しくないことが多い。ガイド一人一人が国立公園をアピールできたらもっと影響があるのではないか。ただし、プログラムで加入している保険が外国人観光客にも適応されているのかがガイド側できちんと把握できていないなどの課題もある。

【野添委員】

- ・今回の満喫プロジェクトは新規プロジェクトなので、既存の資源を提供するだけではなく、新しいルートやアクティビティの掘り起こしをより全面的にバックアップを出していくことが必要だと考えている。それによって8公園で大きく人が動いたとなると、他のエリアにも波及していくのではないか。

【涌井座長】

- ・1,000万人をどう達成するのかについては、集客力のある公園をどうするのか。
- ・選定されなかった公園に引き続き尽力してもらうためには、個別的なエリアやビューポイントに限定して特色のある事業を提案してもらい選定する方法もある。
- ・パートナーシップ企業やボランティア団体をどのように組織していくのかに目配りしていただきたい。専門性の高いガイドやホスピタリティをもつ地域住民のボランティアリーダーをどう育てるかは非常に重要なことである。そういったことをやっていかないと、壮大な自然だけを見る国立公園ではなく、人々の暮らしとあいまった風景にその魅力があるところを育て上げることはできない。地域にある温泉や食文化、伝統・文化芸術などをミックスしたルーティングを作っていくことが重要であり、国立公園だけで勝負するのではなく、そこにアクセスするルートの中に多様な楽しみ方があるような仕組みも同時に考えていかなければならない。そういった提案を求めていくこともひとつの切り口ではないか。

【江崎委員】

- ・伊勢志摩にもようやく一泊50万円の宿泊施設ができた。そこで何十泊もする宿泊客の行動を聞いたことがあるが、泊まりながら沖縄や北海道にヘリコプターで移動していて、思った以上にヘリコプターで移動しているとのこと。上から見た景色はその方々にとっては重要だったのかもしれないと思うと、ソーラーパネルはどのように映っていたのか。どの地域でもソーラーパネルは景観上問題になっていると思うが、美しいルートの中ではやはり目をつぶれない部分ではないか。

【石井委員】

- ・国立公園をルートの一つとしてとらえるというのはまさにその通り。今回のプロジェクトでは、8公園全てに地域協議会があり、必ず観光庁の出先機関が入っており、観光庁の事業と組み合わせて実施することができる。広域観光周遊ルートは地方でのインバウンド受入を促進するためにつくられているので、国立公園をルートに加えてもらうなど広域観光周遊ルートとの連動をもっと強く明確に打ち出すとより効果が出てくるのではないかと。広域のなかで捉えることはすごく大切。

【涌井委員】

- ・必ずしも都道府県という単位でなくても、市町での連携でもあり得るのではないかと。自ら母都市になって頑張ろうと思っている地域はしっかり評価すべきであり、そういった地域間での連携を認定することもなきにしもあらずという気がしないでもない。いずれにしても、広域をどう実現するのかは非常に大事だと思う。そういった手の上げ方もオルタナティブとして考えていただくと発想が広がるのではないかと。

【江崎委員】

- ・伊勢志摩国立公園は3市1町にそれぞれガイドがいる。以前は自地域のことだけガイドできればそれでよかったが、海外からの観光客は行政の線は感じていないため、鳥羽のガイドであってでも伊勢や志摩のことを問われる。これまでは、各市町がガイドを育ててきたが、自地域のみ案内することを前提としてきた。今マーケットに求められていることは行政界を超えてのガイドであるが、現実的にはその動きは難しい。それができないと満喫はできないので、そこにかかるブレーキやハードルを取り除くことを考えることが必要。

【涌井委員】

- ・国立公園を知ってもらう階層性も配慮してほしい。エデュテイメント（エデュケーション＋エンターテイメント）は重要だが、のっけから理科や科学の教育が前に出過ぎてしまい、解説しすぎて魅力がわからないというケースがある。大きな見方でモノを見たいときに顕微鏡レベルの話を持ち込まれるとついていけない。

【アトキンソン委員】

- ・二条城の解説のやり直しの過程で、ある天井の解説を依頼したところ物理的な作り方の解説が返ってきた。ここで知りたかったことは、なぜそこにその天井があるのかということであり、天井の作りをみればどの身分の人がどこに座れば良いのかということがわかるということ。京都御所も檜皮の葺き方についての説明はあるが、皇室の説明は全くない。大きな話の中のごくごく一部の小さなことが解説されていることをよく見かけるが、観

光として知りたいことは大きな話。子どもに説明するレベルからスタートして、どんどん深めていくということができるとよい。国立公園では、目の前にある風景のパノラマ写真パネルがよくあるが非常にもったいない。また、植物も～種の～科ということは書いてあるが、今何が咲いているのかは分からない。現状では「人が楽しむ」という概念が足りていないので、もっと意識してすべき。

【涌井座長】

- ・それぞれの委員の先生方からあったように、非常に重要なことはルーティングで考えることと、知らせるということ。知らせることについては楽しむことをまずベースとして、ここも階層性があるべき。施設についても、階層性があるべき。
- ・今後、選定された8公園が具体的行動していくが、続いて、熱心に手を挙げたところも、しっかりとこの事業ができあがるように、なおかつ、それを取り囲む多様なステークホルダーが参画し、母都市や周辺市町村も一緒になって考えていくという仕組みが必要である。デジタル的に考えるのではなく、アナログ的にシークエンシャルな考え方で、切り取った景観を並べるのではなく、体験のルートのようなものをイメージしながらよりよい魅力をつけていただきたい。

【石井委員】

- ・慶良間諸島国立公園に3月にオープン予定の見花原遊歩道は、素人が見ても楽しい解説になっていた。環境省がこれから作るものは素晴らしいものになっていくだろう。

【アトキンソン委員】

- ・2年前は翻訳をいかに良くするか、1年前はネイティブチェックをどうやってするのか、と2年間考えてきたが、翻訳はできないということが最近になってわかった。監修した三重県と和歌山県のインバウンド向けのホームページでは、翻訳をせずにライターを入れたが大成功だった。

【涌井座長】

- ・5回目の有識者会議あるのか。
- 一時期は未定だが、もう少し議論を深めていただきたいと考えている。(環境省)

○関副大臣より閉会の挨拶

- ・多角的に色々なことを考え、対応していかなければならないと改めて認識した。各委員の方々からいただいたご意見、体積で考えないといけない、廃屋を撤去しないといけないなど、自分で訪れて実感したところ。どのようなきっかけでしてもらうのか、リピーターになってもらうためにはどうしなければならないかなど、様々な切り口から体系的に考え

ていかなければならない。本日は非常に良いご示唆をいただいた。選定した8つの国立公園について具体的な実行をどのように進めていくか、8つの公園以外についてどのように取り組んでいくかにをしっかりとまとめていきたい。忌憚の無いご意見をこれからも宜しくお願いしたい。